

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	津田 彰	所属	久留米大学文学部心理学科
研究集会等名称	ストレス科学研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 48名 (うち認定心理士 1名) 非会員 2名 (うち認定心理士 0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 本年度は以下の3つのシンポジウム及び国際セミナーを実施 (共催を含む) した。</p> <p>1. キックオフ集会: 第77回日本心理学会企画シンポジウム (2013年9月19日, 15:30-17:30, 札幌コンベンションセンター) 演題: 「新たなストレス科学研究国際的共同研究戦略」 実施内容: ストレスに由来する様々な問題への健康支援に向けた国際共同研究戦略を練ることを目的として実施した。代表者による趣旨説明に続いて, IT技術を活用したストレスマネジメント介入研究を行っている研究者 (田中芳幸, 富家直明, 伊藤桜子) が話題提供を行った。指定討論者 (野口京子) に口火をきってもらいフロアとの議論を深めた。なおイントロ部分のみであるが国際化対応のため英語での趣旨説明を行った。いずれの演題も IT を利用した介入実践研究報告であり, 国を超えての共同研究の可能性を示唆する内容であった。参加者も上記の通り多数参集し, 盛会であった。</p> <p>2. 国際セミナー: Kurume International Seminar 2013 (2013年12月7日, 9:30-16:00, 久留米大学) 演題: 「Well-being, Stress and Health」 実施内容: 代表者主催にて, インドネシアの研究者 (Yus Nugraha と Gimmy Prathama) によるシンポジウム2題, 国内の研究者 (土田くみ, 山本哲郎, 永田勝太郎) によるワークショップ1題, 講演2題を実施した。研究会の目的の一つであるアジア研究者との共同研究の可能性を探ることができた。</p> <p>3. 招待シンポジウム: The Fifth International AAICP Conference on Stress, Health and Well-being: Indigenous, Social and Cultural Perspectives (2014年1月10日, 13:00-15:00, インドネシア, スラカルタ) 演題: 「Bio-Psycho-Social Approaches to Stress and Health: Experimental and Interventional Studies in Japan」 実施内容: ストレスをキーワードに, 基礎研究, 実験室研究, フィールド研究, 介入研究及び臨床研究について話題提供 (田中豪一, 矢島潤平, 岡村尚昌, 御堂直樹, 小池城司, 津田 彰) を行った。主にフロアのインドネシアの院生や若手研究者から, 多くの質問を受けるとともに, ディスカッションを深めることができ一定の成果を得ることができた。</p>		

2014年3月31日

日本心理学会研究会 2013年度会計報告書

研究会名称 公益社団法人日本心理学会ストレス科学研究会

研究会番号 _____

助成金額 ¥40,000

年月日	項目	金額
2013年10月1日	ホームページ開設関連費（主に謝礼）	¥7,000
2013年12月9日	会場使用料（久留米大学会場）	¥30,000
2014年1月10日	シンポジウム打ち合わせ食費の一部（参加者5名）	¥3,000
支出合計		<u>¥40,000</u>